

九条の樹 61号

2016年5・6月

東久留米「九条の会」ニュース

発行：東久留米「九条の会」

代表者 古田足日・連絡先 鈴木Tel. 042-473-9489

<http://members3.jcom.home.ne.jp/higashikurume9/>

メール：higashikurume9@jcom.home.ne.jp



- ◎ 日本国憲法 第9条
- ◎ ①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
 - ◎ ②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。
 - ◎ ③国の交戦権は、これを認めない。

あなたには戦争がどういうものか知っていますか。おじいさんやおばあさんから昔のことを聞いたことがあるかもしれません。学校の先生が戦争の話をしてくれたかもしれません。話に聞いたことはなくてもテレビで戦争している国を見たことならあるでしょう。

私たちの国は六十年近く前に『戦争をしない』と決めました。だからあなたは戦争のために何かをしたことはありません。でも国の決まりや仕組みを少しずつ変えていけば、戦争しないと決めた国も戦争できる国になります。その間には例えばこんなことがおこります。わたしたちの国を守るだけだった自衛隊が武器をもってよその国に出かけるようになります。世界の平和を守るため、戦争で困っている人々を助けるため、と言っています。

攻められそうだと思ったら先にこっちから攻める、ともいうようになります。戦争のことはほんの

何人かの政府の人たちで決めていいという決まりを作ります。ほかの人には『戦争することにしたよ』と言います。時間がなければ後で。政府が戦争するとか戦争するかもしれないと決めるとテレビやラジオや新聞は、政府が発表した通りのことを言うようになります。政府に都合の悪いことは言わな



メラが付けれられます。いい国民ではない人を見つげるために。私たちもお互いを見張ります。いい国民ではない人が周りにいないかと。誰かのことをいい国民ではない人も、と思ったからお巡りさんに知らせます。お巡りさんはいいい国民ではないかもしれない人を捕まえます。

戦争が起こったり、起こりそうな時はお店の品物や、あなたの家や土地を軍隊が自由に使えるという決まりを作ります。いろんな人が軍隊を手伝うという決まりも。例えば飛行機のパイロット、お医者さん、看護師さん、トラックの運転手さん、ガソリンスタンドの人、建設会社の人などです。戦争にはお金がたくさんかかります。そこで政府は税金を増やしたり、私たちの暮らしのために使うはずのお金を減らしたり、私たちからも借りたりしてお金を集めます。味方の国が戦争するときにはお金をあげたりもします。

(2ページへ)

私たちの国の憲法は戦争しないと決めています。憲法は政府がやるべきことと、やってはいけないことを私たちが決めた国のおおもとの決まりです。戦争したい人達には都合の悪い決まりです。そこで私たちの国は戦争に参加できると憲法を書き変えます。さあこれで私たちの国は戦争できる国になりました。政府が『戦争する』と決めた

ら、あなたは国のために命を捨てることができます。政府がこれは国際貢献だと言えばあなたはそのために命を捨てることができます。戦争で人を殺すこともできます。お父さんやお母さんや学校の友達や先生や、近所の友達が戦争のために死んでも悲しむことはありません。政府がほめてくれます。国や国際貢献のためにいいことをしたのですから。人の命が世の中で一番大切だと今まで教わってきたのは間違いになりました。一番大切なのは国になったのです。もしもあなたが『そんなのはいや

だ』と思ったらお願いがありません。ここに書いてあることが一つでも起こっていると気づいたらおとなたちに『大変だよ、何とかしようよ』と言ってください。おとなは『いそがしい』とか言ってこういうことになかなか気づこうとしませんから。私たちは未来を作り出すことができます。戦争しない方法を選び取ることも――



(りぼん・ぶろじえくと)

よくよく考えれば、「平和」の反対語は「戦争」じゃなくて「ペテン」だとわかります。ぼくらがペテンにひっかかるどころから、もう戦争は始まっています。アーサー・ビナー(D(詩人)帯文より。

「戦争のつくりかた」について

池田香代子

「戦争のつくりかた」は12年前に出した絵本です。

当時OLをしていた若い女性が一瞬で思いついたんです。

「いろんな法律が出来てきて急になんか変だな」と思っていて

「なんか変だな」と思っていて急に思いつきました。20人ぐ

らいの人にメールで知らせたら、「これはいい」というので話し合っ

てまとめたものです。一昨年2つの地方紙が社説で

「戦争のつくりかた」を取り上げ「第二次安倍内閣を予言して

いたのではないかと。そして300円の冊子がヤフーオーク

ションで4千円の値が付きました。(笑)みんなと「現実になっ

たね」と話して新しく出しました。年表や、自衛隊の海外派遣

の地図も付けました。これをア二メにしてくれた人たちがあってパソコンで見られます。

(2月14日東久留米革新懇総会講演より。「戦争のつくりかた」は池田さん朗読を文章化させていただきました。)(いけだかよこ ドイツ語翻訳家。グリム童話、ソフィーの世界など世界平和7人委員会委員)

東久留米「九条の会」

11周年のイベント

開催 6月11日(土)

午後7時〜(開場6:30)

まるにえホール

協力券500円

●「戦争のつくりかた」アニメ

上映

●講演会

山口二郎 法政大学教授

「戦後デモクラシーを守り抜くー参院選で問われること」



「戦争と障害者」について

矢澤健司（前沢）

昨年8月にNHKハートフルTVで3回のシリーズで放送されました。

これは600万人ものユダヤ人犠牲者を出したといわれる、ナチス政権によるホロコースト。これを忘れてはならないとする認識は、戦後ドイツの基本です。しかし、ユダヤ人大虐殺の前に、いわば「リハーサル」として、20万人以上の障害のあるドイツ人らが殺害された「T4作戦」は同じようには語られてきませんでした。

日本障害者協議会（JD）の代表藤井克徳さんは自らドイツに2回訪問し取材をされ、その真実に迫りました。「T4作戦」とは第二次世界大戦中にナチスによって実行された障害者や治る見込みのない病者などを対象とした「安楽死政策」である。

犠牲者は、ドイツ全体で20万人以上、欧州全体で30万人以上とされている。藤井さんはこの取材を通して3つの点に集約されている。

一点目は、障害者ならびに治る見込みのない病者を「価値」のないものとして殺害を図った。「価値」の最大の基準は「生産性」であった。第二点は、精神医師を中心に、少なくとも医療関係者が積極的、自主的に加担していることである。医師たちはヒットラーの優生学政策を巧みに利用した。第三点は、「T4作戦」がユダヤ人などの大虐殺のリハーサルになった。

ナチスの大規模なプロパガンダ（政治的な宣伝）により「障害者や遺伝性の疾患にある者は社会のお荷物、厄介者」といった考えを徹底して市民社会に刷り込んでいった。そんな中であって、果敢に抵抗した人がいた。一人は、全盲のオットー・ヴァイトは、同じ視覚や聴覚に障害のあるユダヤ人の障害者を

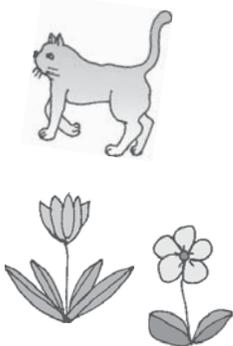
延べ35人以上救った。もう一人は、ドイツ北西部のミュンスター・ガールン司教である。「私たちは他者から生産性であるといわれたときだけが生きる権利があるのか、非生産的な人間を殺してもいいというならば、いま弱者として標的にされている精神障害者だけでなく、非生産的な人、すなわち病人、傷病兵、仕事で体が不自由になった人すべて、老いて弱ったときの私たちすべてを殺すことが許されるであろう。」

戦争は残酷であり、いったん始まれば止めることができず、その醜さが障害者に最も集中しやすい。逆に云えば、前ふれや兆しの段階での察しが問われ、その前ふれや兆しもまた障害者に表れやすいと言えよう。戦争に関しては異常なほどの敏感さが丁度いいと思う、と藤井さんは述べている（JD すべての人の社会2016 No.428）。

今の日本はこの兆候が表れて

いるのではないでしょうか？戦争法案が通り、福祉サービスが年々財政を圧迫するといいい、年金の切り下げ、介護サービスの改悪が行われ、障害者総合支援法の3年後の見直しでも、障害自立支援法の訴訟和解で国との基本合意も守られず、多くの障害関係当事者が参加して作られた骨格提言も反映されていません。憲法改憲の話が国会の議論でも出てきています。

藤井さんが述べている「戦争をいかになくすることは人類にとつて最大のテーマと言える。簡単なことではない。ただし、私たち障害分野から一言言いたいことがある。違いを大切にす社会・わけ隔てのない世界にかけがえのないヒントが含まれている。」



戦争体験記

六年間の国民学校時代

小林 雅（西東京市）

私が育ったのは群馬県の榛名山の東麓に位置する村で、当時
は桑畑が一面に広がっていた。

一九四一年、尋常小学校は国民学校という名に変わったが、私の入学したこの年、太平洋戦争が始まった。

当時、子どもたちの服装といえば着物が多く、学生服の子もほとんど兄たちのお下がりであり、あちこち継ぎが当たっていた。冬になると、その上に紺緋の羽織りを着るが、袖は、たいてい涙を拭くので黒光りしていた。ちり紙といえ古新聞を切ったもので、その新聞を取っていない家の子も多くいた。

履物は、主としてぞうりであり、四年生ぐらいからは自分で作った。稲わらで作るので、学校まで往復一時間の距離を歩くと三日でダメになる。わらにボロ布

を巻いて編めば一週間はもつなど、様々な工夫をこらした。

戦局が進むにつれ、物資は不足してきたが、何とか工夫しながらしのいだ。校舎の窓ガラスが割れると紙を貼り、校舎全体が紙の窓になってきたものだった。疎開してくる子が増えて教室がすし詰め状態になっても、試験の時、互いの答案用紙が見えて便利だと笑い合えた。

ただ、農山村とはいっても、食糧不足は深刻だった。野山でわらびやきのこを採り、農業用水でしじみやたにしを獲り、乳を搾るために山羊を飼った。養蚕農家の手伝いにも行き、子どもたちもできることをした。
一九四四年、四年生の時、仙台の青葉部隊が学校に駐屯してきて、部隊に何頭もいる馬の餌を学校側で賄うことになった。

四年生以上が、夏中、登校前に草を刈り、背負いカゴ一杯にして学校に届ける。それから家に帰って朝食をとって再登校のはずだったが、その頃には警戒

警報の頻度が増し、そのまま休校になることが多くなった。

アメリカの飛行機による空襲は、夜はB29によるものがほとんどで、プロペラが4つも付いたとてつもなく大きな機が焼夷弾を投下する。まず軍需工場が狙われた。飛行機の胴体の半製品を、工場周辺の竹藪の中に隠して置いたのがどうして判るのか、そこだけがやられていた。

昼間は艦載機が空襲してきた。グラマンF6Fは、低空で急に来るので大きく見えた。電車が機銃掃射され、命からがら逃げ帰ってきた人もいた。

日本の飛行機は赤トンボと呼ばれた二枚羽の練習機がよく飛んでいたが、空襲に際して迎撃つのは見えたことはなかった。こうして日本は、一九四五年

八月一五日、敗戦の日を迎えた。戦後、新しい制度が次々に制定され、学制も変わった。国民学校という名の下で六年間を過ごしたのは、私たちの学年だけであった。

《平和を考える本》

『SEALDS』

『民主主義ってこれだ！』

SEALDS・編著（大月書店）



シールズの日本語訳は、「自由と民主主義のための学生緊急行動」である。

その名のとおり、安倍内閣による特定秘密保護法の強行採決（2013年12月）、解釈改憲による集団的自衛権の行使容認（14年）に危機感を募らせた学生たちによる異議申し立ての行動である。2015年9月、安保関連法案も強行採決されたが、彼らの柔軟でねばり強い行動様式は年配者や世界中からも賛同を得た。

反対デモを徹夜で行った彼らは、黙々とゴミを拾い、睡眠もとらないでバイトへと出かけてゆく。参院選に向けても、同じ志の団体・政党と、斬新で柔軟な共闘ふりをみせている。

（高田桂子）